

和歌山だよいい

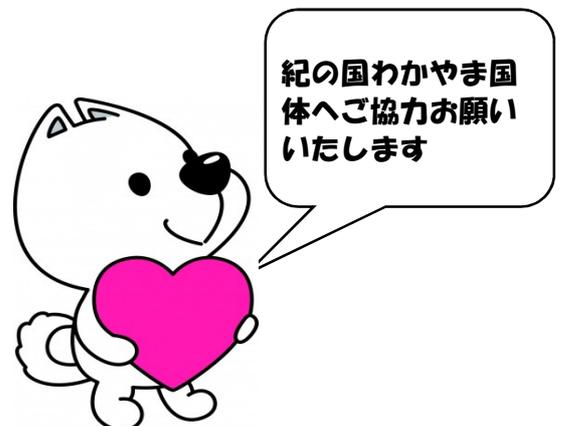
平成25年 4月号



子安地蔵寺の藤（橋本市）

CONTENTS

1. 知事メッセージ…………… P1
2. 和歌山県政トピックス…P2～P11
3. ふるさと歳時記…………… P12



「 あんたの時代は良かった 」

沢田研二さんの歌に「ボギー、ボギー、あんたの時代は良かった」というフレーズがあります。私は、和歌山市に1950年に生まれて18歳までずっと育ちました。今からよく調べてみますと、その頃の和歌山はさまざまな点で「良かった」のです。もちろん所得も、生活水準も今の方が上ですが、日本全体の相対的位置付けからすると、所得も工業生産高も、町の賑わいも、今よりもずっと高かったのが当時の和歌山でした。子ども心にも、この辺の感じはありまして、「同じ地方圏でも他の地域よりもましな気がするなあ」と思っていました。

その気持ちが油断になって、というのがきつすぎるなら現状で満足する余り、和歌山は、急速に変わりながら発展する日本経済の中で取り残された感があります。日本も世界も急速に成長分野を伸ばす中で、和歌山の製造業の70%は昔も今も石油と鉄鋼と化学と同じです。何もミカン畑をつぶさなくてもと消極的だった高速道路は整備が遅れ、他の地域がそれを利してさまざまなチャンスをものにしていく中で、段々と全国から切り離されるようになりました。無計画な住宅地の拡大が都市を寂しいものにしてしまいました。発展から取り残されたために、残ったはずの美しい自然も、本来なら貴重な資源なのにアクセスの不備で必ずしも十分には売り出せないでいます。

しかし、我々はそう嘆いてはいけません。歴史的に紀州人は困った時こそ、人以上に頑張ってきたのです。インフラを正しく整備し直し、ずるいことをして儲ける種は廃し、新しい産業を育て、貴重な自然と景観と文化を守り、福祉医療を支えつつ、歯を食いしばっても次世代の若者を立派に育てるという次の飛躍のためのスタートを和歌山は既に切っています。

いつか良くなった時代の人々が「今から考えると、あの時代が一番辛かったんだなあ」と思ってくれるように、今の我々は頑張ろうではありませんか。



3/3 ラグビートップリーグでのキックオフセレモニーにて

今月の和歌山県政トピックス

* 最近の県政の動きや県内の話題などをピックアップしてお届けします。

●和歌山県民文化会館がリニューアルオープン

・3月30日、耐震工事のため2年間休館していた和歌山県民文化会館が装いも新たに生まれ変わり、リニューアルオープンしました。

・春らしい陽気に包まれたオープンの日、県民文化会館前の広場では記念式典が開催されました。仁坂知事は「2年の歳月を経てこのような大勢の皆様祝福されて、オープンできることに心から御礼申し上げます。ご不便をおかけしましたが、これからは、県民の皆さんに存分にお使いいただきたい。」と挨拶しました。

・続いて、知事と来賓の国会議員、県議会議長、県内の文化団体関係者によるテープカットが行われ、今年の秋で開館から43年を迎える「けんぶん」の新たな出発を祝いました。

・リニューアルオープンを記念して様々な行事も行われました。

・広くなった展示室では日本芸術院会員で和歌山在住の清水達三画伯の日本画展が開催されました。

・清水画伯と仁坂知事による対談も行われ、清水画伯は、「私は和歌山ばかりを描いてきました。和歌山には誰も知らないような素晴らしいところがたくさんある。皆さんも和歌山の海や山の再確認したうえで大いに活躍してほしい。」と述べられ、仁坂知事は、昔から続く和歌山の誇る市民文化をより発展させていきたい。」などと話しました。

・また、表千家同門会和歌山県支部と裏千家淡交会和歌山支部の方々による呈茶のもてなしや和歌山県華道家協会と和歌山文化協会の方々による生け花が大ホールや展示室入り口を飾り、リニューアルオープンに華を添えました。

・そして、当日3時からは大ホールで記念コンサートが開かれました。寺岡清高さん指揮による大阪交響楽団のチャイコフスキー「祝典序曲 1812年」で幕開けの後、わかやまパンダ大使の岡本玲さんがステージに登場し、けんぶんのリニューアルを祝いました。この後、本県出身のピアニスト杉谷昭子さんによるモーツァルト「ピアノ協奏曲第23番」和歌山児童合唱団の皆さんによる「紀の国のこどもうた」の合唱、木乃下真市さんによる「津軽三味線オーケストラのための絃魂」、再び大阪交響楽団によるドボルザーク「交響曲第9番新世界」の演奏と続きました。アンコールでは大阪交響楽団と和歌山児童合唱団による「ふるさと」の大合唱、そして「ラデッキー行進曲」が披露され、コンサートは終了となりました。2階席まで満員となった会場では、来場者それぞれが音楽を堪能しながら、「けんぶん」のリニューアルを祝いました。

・このほか、座席が新しくなった小ホールでは本県出身の東陽一監督（30日）とSABU監督（31日）によるトークショーと映画上映、会議室では本県出身の漫画家田村由美さん（30日）と助野嘉昭さん（31日）によるスペシャルインタビューも行われ、多くのファンが詰めかけました。



● ラグビートップリーグオールスター

「FOR ALL チャリティーマッチ IN 和歌山」開催！！

・3月3日、ジャパンラグビートップリーグオールスター「FOR ALL チャリティーマッチ in 和歌山」が和歌山市の紀三井寺陸上競技場で開催されました。

・この大会は、日本ラグビーフットボール協会とラグビートップリーグ等の主催によるもので、ラグビーを通じて社会貢献活動を選手主導で行うことを目的に平成21年に始まり、今回が5回目となり、収益金の一部が紀伊半島大水害や東日本大震災の被災地支援に充てられます。

・試合に先だつオープニングセレモニーで、仁坂知事は紀の国わかやま国体に向け、紀三井寺陸上競技場がリニューアルしたことに触れながら、「新しくなった会場で、迫力あるプレーが間近でみられることは素晴らしいこと。主催者の皆さんに感謝します。」と挨拶。試合は、知事によるキックオフセレモニーで開始。トップリーグで活躍する選手が全員20代の「ヤングスター」と30代が中心の「シニアハート」に分かれて対戦しました。

・また、前日にはトップリーグの選手による県内高校生への練習指導、当日も、県内高校選抜と県外の高校によるエキシビジョンマッチやスタジアム周辺では、小学生以下を対象としたタグラグビー体験や県内のラグビースクールの子どもたちとの交流試合などの催しも行われました。

・さらに、場外ではチャリティーオークションやトークショーなどのほかに、ご当地グルメが楽しめるフードコート、2015 紀の国わかやま国体ブースやわかやま観光情報ブースも設けられ、迫力ある試合とともに、大勢の来場者が楽しい1日を過ごしました。



● “わかやま応援館” 出発！！

・3月16日、岡山市の岡山電気軌道岡山駅前電停において、「たま電車・わかやま応援館」の出発式が行われました。

・岡山電気軌道は、たま駅長で有名な社長代理を務める和歌山電鉄と同じ両備グループの会社で、たま駅長のイラストをあしらった路面電車「たま電車」を岡山市内で運行しています。

・今回、この「たま電車」に紀州材を使ったパンフレットラックや吊り輪などの新たな内装が加えられ、車内に和歌山の観光パンフレットを常備するなど、和歌山をPRする「わかやま応援館」として運行されるものです。

・この「わかやま応援館」は、本県ゆかりの方々に構成されるわかやま応援団のメンバーである次田尚弘さんの発案によるもので、出発式では、次田さんが館長に、両備グループの小嶋光信代表が名誉館長に就任。そして新たに三毛猫の「SUNたまたま」が館長代理に就任しました。仁坂知事もお祝いに駆けつけて、和歌山への観光誘客を呼びかけました。

・詳細は岡山電気軌道のホームページ (<http://www.okayama-kido.co.jp/tramway/index.html>) をご覧ください。



●FOODEX JAPAN2013（第38回国際食品・飲料展）和歌山県ブースが出演！

・3月5日～8日、アジア・環太平洋地域最大の食品・飲料の国際展示商談会“FOODEX JAPAN 2013（第38回国際食品・飲料展）”が幕張メッセ（千葉県千葉市）で開催されました。

・和歌山県は6年連続自治体最大規模の出演となり、梅干、梅酒、梅関連製品、みかんジュース、水産加工品などを取り扱う県内21事業者が出演。「おいしい！健康わかやま」を装飾コンセプトに据え、古くから日本人の活力を支えてきた豊かな食材や機能性を持った食品が和歌山県には集結していることをアピールしました。

・また、会場での商談の効率や成功率をできるだけ高めることができるよう、県では出展業者と共に、事前に様々な準備や研修セミナーにも取り組んできました。

・会場には4日間で、71,536人が来場。和歌山県ブースも多くのバイヤー達で賑わいました。

・またFOODEX JAPANでは、タレントやフードコーディネーター、栄養士など“食”に対する意識の高い女性たちを募って「FOODEX 美食女子」を組織し、女性消費者の視点から商品開発・販売強化を支持するプロジェクトを行なっています。今回そのうちの一つ「FOODEX 美食女子」グランプリにおいて、和歌山県ブース出展商品のうち3商品が金賞、2商品が銀賞を受賞しました。



「FOODEX 美食女子」グランプリ

○金賞

商品名（事業者名）	商品の特徴
梅の実 （JA紀南）	女性に人気の梅酒の梅。紀州産南高梅をデザート感覚で美味しくいただけます。
タンゴラム きよみオレンジと 紀州南高梅のお酒 （中田食品株式会社）	果汁は柑橘類の中で一番香りがよいとされる、有田産のきよみオレンジを100%使用。紀州南高梅の梅酒。
紀州石神の紅芋梅酒 （株式会社濱田）	紀州石神地区限定栽培の完熟南高梅を使用した熟成梅酒に紅芋を加えた梅酒

○銀賞

商品名（事業者名）	商品の特徴
小南農園のみかんカレー （株式会社小南農園）	本格スパイスを贅沢に使い、田村みかんの果汁と果肉を加えてじっくり煮込んだ、フルーティでスパイシーな大人のカレー
美プラスギフトセット （中田食品株式会社）	それぞれ違う梅酒に、別々の美容成分を加えた梅酒ギフトセット。カシス梅酒（コラーゲン入り）、ライチ梅酒（ヒアルロン酸入り）、マスカット梅酒（コエンザイムQ10入り）

● 和歌山デスティネーションキャンペーン推進協議会設立総会を開催

・3月18日、「和歌山デスティネーションキャンペーン推進協議会」が発足し、和歌山市において設立総会が開催されました。

・「デスティネーションキャンペーン（以下DC）」は、JRグループ6社（北海道、東日本、東海、西日本、四国、九州）と自治体・観光関係団体等が協働で実施する大型観光キャンペーンです。和歌山のDCは今回が5回目で、昭和53年に全国で初めて行われたDCも本県と当時の国鉄による「きらめく紀州路」をキャッチフレーズにしたキャンペーンでした。



・今回のわかやまDCは「紀伊山地の霊場と参詣道」が世界遺産登録10周年を迎える平成26年の9月～12月に行われます。期間中は「和（なごみ）」をテーマにJRの広報媒体により全国に情報発信されるとともに、旅行商品拡大により観光客の誘致促進が図られるなど、本県の観光振興の大きな弾みとなることが期待されています。

・設立総会で、仁坂知事はDCの翌年が高野山開創1200年や紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会の開催の年にあたることに触れ、「DCを核に和歌山の観光を大いに盛り上げていきたい」と挨拶しました。

・今後、受け入れ体制や宣伝広告等について詳細を検討するなど、本番に向けた準備が進められていきます。

● 和歌山県企業ソムリエ委員会 認定企業が決定されました

・2月26日、次代の和歌山県の経済をリードする企業を発掘・育成するために設置された「和歌山県企業ソムリエ委員会」（会長：島 正博（株）島精機製作所代表取締役社長）が開催され、認定企業が決定されました。

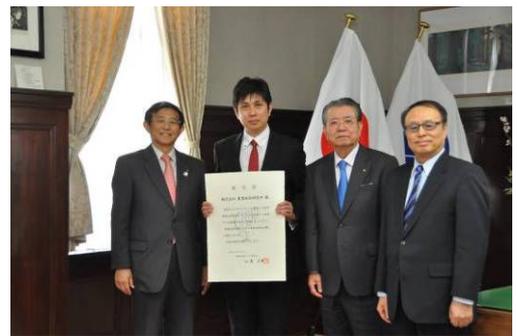
<認定企業>

(株)農業総合研究所

(和歌山市：及川 智正 代表取締役社長)

2007年設立。都市部のスーパー内に「都会の直売所」を設置。田舎に多い農産物の直売所を都市部に持ち込むことで、より新鮮で生産者の顔が見える農産物を求めるために、田舎の直売所まで出かける都市部の消費者ニーズを取り込むことに成功。現在、「都会の直売所」は全国120店舗に展開。集荷拠点も13拠点まで拡大。

また、農家にとっても、自分たちで出荷先と価格を決めることができ、さらに、一般の市場流通に比べ、中間流通業者を省くことで農家の手取りを増やすことが可能。取引する農業者は3000名に拡大。



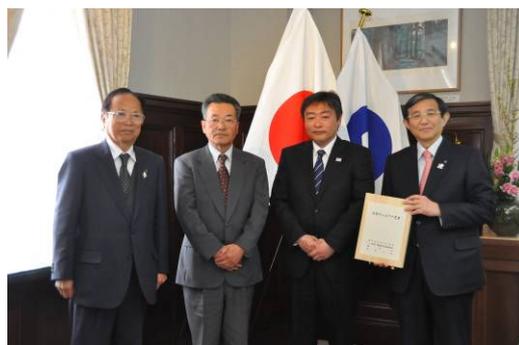
・3月18日、知事室で授与式が行われ、島会長より認定証が授与されました。仁坂知事から、受賞企業への継続的な支援と今後の活躍を期待する旨の言葉が贈られました。

※受賞企業の概要については下記ホームページをご覧ください。

<http://wave.pref.wakayama.lg.jp/news/kensei/shiryo.php?sid=15066>

●「企業のふるさと」第3弾！！

・3月26日に、「企業のふるさと」（企業と農村が連携して継続的に取り組む、農村地域の保全・活性化対策）の第3弾として、「井関農機」と「くにぎ広場・農産物直売交流施設組合」が、橋本市西端地区において継続的な協働活動を実施することになり、橋本市、和歌山県と両者の4者が覚書に調印しました。



・西畑地区では、江戸時代からの特産品で、一度は栽培が途絶えた「畑ごんぼ（西畑地区のゴボウの意）」を復活させ、地域活性化に向けた取組を行っています。今回の事業では、井関農機自慢の機械力を駆使しとして、地区内にある耕作放棄地をごんぼ畑として復活させ、生産拡大を図っていきます。これまでの交流中心の協働活動とは異なる、産地化を目指すプロジェクト型の活動となっているのが大きな特徴です。

「企業のふるさと」は、下記アドレスをご覧ください。

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hurusato/index.html>

●「わかやま塾」6月開講！～世界へはばたくグローバル人材を育成～

・アジア等を中心とした海外への事業展開の加速化に伴い、グローバル人材の育成・確保の重要性が高まる中、和歌山県では「わかやま塾」を開講し、将来の県を支え世界に羽ばたく人材の育成を目指します。

・講師には、仁坂知事をはじめ、各界で活躍中の専門家、県内外の経営者を招く予定で、開講は6月。現在、塾生を募集中です。

・詳しくは下記のホームページをご覧ください。

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/061000/homepage/index.html>

わかやま塾の概要

○受講対象者

県内企業の経営者や幹部、後継者、企業を志す者、公務員 他（50歳未満の方）

○講座内容

- ① 行政制度、立法過程、税制度、経済制度、地方自治、世界経済情勢など
- ② 世界に羽ばたくグローバル人材になるための起業家精神の涵養

○講師

知事、各界専門家、県内外の経営者

○定員 100名

○会場 和歌山県民文化会館など、和歌山市内を予定

○開催日時 受講期間及び時間

平成25年6月～平成26年2月までの9ヶ月間

原則として毎月10日頃の平日 19:30～21:30

● 橋本市・あやの台北部用地（仮称）開発に関する基本協定を締結

・このたび、橋本市・あやの台北部用地（橋本市隅田町）の開発を、南海電気鉄道株式会社、橋本市、和歌山県の3者が協力して実施することについて合意に至り、3月29日に基本協定を締結しました。

・東日本大震災以降、内陸部の企業用地へのニーズが増大し、本県への企業進出も順調に推移しています。また、京奈和自動車道の整備も急ピッチで進められている中、時宜を逸することなく、将来を見据えて開発計画を進めることは、企業誘致戦略上、大きな効果が期待できます。

・今後は、橋本市を事業主体とする企業誘致用地の開発に係る全体事業計画を策定し、細目協定締結に向けた協議を進め、平成28年には用地造成の開始を予定しています。



● 国道168号「本宮道路」供用開始！！

・国道168号は、和歌山県新宮市から奈良県五條市に至る延長約130kmの地域高規格道路（五條新宮道路）に指定されており、紀伊半島の内陸部と沿岸部の交流促進を図る重要な役割を担う路線です。

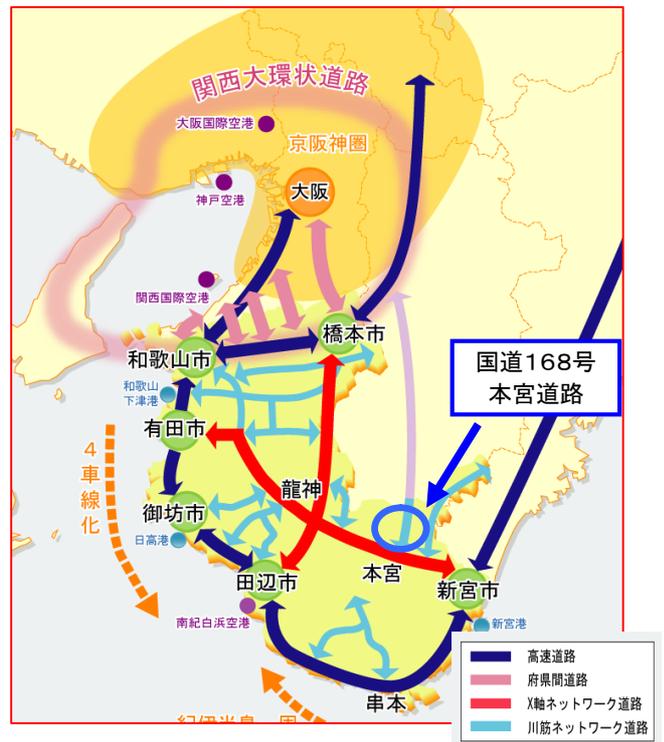
・この路線の中で、田辺市本宮町大居と奈良県境を結ぶバイパス「本宮道路」の工事が完成し、3月31日に関係者が出席して開通式典が行われました。

・仁坂知事は、「紀南に何か一大事が起こったとき関西の中心からいろんなものが南下することができる。奈良県側についても急ピッチで工事が進んでいる。五條新宮道路が一日も早く全体として開通することを祈る。」と式辞を述べました。

・当日は、地元の多くの方々が参加し、奥熊野太鼓の演奏や餅まきを行い、盛大に開通を祝いました。

・新バイパスは、近畿自動車道紀勢線及び京奈和自動車道と一体となった広域ネットワーク形成の一翼を担い、地場産業の輸送の効率

化や観光振興など地域の発展に貢献するだけでなく、沿岸部で大規模災害が発生した場合、内陸部からの緊急物資等の迅速な輸送など防災面の効果も期待されます。



● 国体 オフィシャルスポンサー・オフィシャルサプライヤーに感謝状を贈呈

オフィシャルスポンサー

・3月18日、紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会の企業協賛制度におけるオフィシャルスポンサーとして決定した株式会社松源とJAグループ和歌山への、感謝状贈呈式が知事室において行われました。

・贈呈式では、株式会社松源 兼田 守専務取締役及びJAグループ和歌山 和歌山県農業協同組合中央会 中家 徹会長から、それぞれ、仁坂知事へ協賛金ボード（目録）が手渡されました。

・知事からは感謝状、マスコット「きいちゃん」のぬいぐるみ及び国体・大会イメージソング「明日へと」のCDをお渡ししました。

・いただきました協賛金は、紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会の広報活動等に活用させていただきます。



オフィシャルサプライヤー

・3月19日、紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会の企業協賛制度におけるオフィシャルサプライヤーとして決定した和歌山トヨタ自動車株式会社、和歌山トヨペット株式会社、トヨタカローラ和歌山株式会社及びネッツトヨタ和歌山株式会社への、感謝状贈呈式が県庁正面玄関前において行われました。

・オフィシャルサプライヤーは100万円相当以上の物品等を提供や貸与していただく企業で、4社からは自動車（トヨタプリウスアルファ）が提供されます。

・贈呈式では、和歌山トヨタ自動車株式会社 弘田 宗博 代表取締役、和歌山トヨペット株式会社 片畑 宏造 代表取締役、トヨタカローラ和歌山株式会社 横山 善行 代表取締役及びネッツトヨタ和歌山株式会社 海瀬 隆太郎 代表取締役から、仁坂知事へ目録が手渡されました。

・知事からは感謝状、マスコット「きいちゃん」のぬいぐるみ及び国体・大会イメージソング「明日へと」のCDをお渡ししました。

・提供いただきました自動車は両大会の開催準備・運営に活用させていただきます



●大滝ダム竣工式が開催されました。

- ・3月23日、奈良県吉野郡川上村において、大滝ダムの竣工式が開催されました。
- ・大滝ダムは昭和34年に紀ノ川流域で多数の死者が出た伊勢湾台風を機に建設が計画され、昭和40年に工事に着手、半世紀近くの時を経て、完成の運びとなりました。
- ・ダムの完成により、紀ノ川の洪水による被害の防止・軽減、また水道等の新たな水源確保、さらにはダム直下の関西電力の大滝発電所において、最大10,500kwの発電が可能となるなど、多目的な事業効果が期待されています。
- ・竣工式には和歌山、奈良両県の知事をはじめ、多数の関係者が出席。仁坂知事は完成に至るまでには、様々な局面があったことを振り返り、地権者をはじめ多くの関係者に感謝のことばを述べました。
- ・また、竣工式に先立ち、公募の結果、決定したダム湖の名称「おおたき龍神湖」の記念碑の除幕式も行われました。



●紀伊半島大水害 災害記録DVDと災害記録誌を作成しました。

- ・この度、当県では一昨年台風12号が本県にもたらした大水害の多大なる被害状況と復興の取組を風化させることなく後世に引き継ぐため、記録DVD『平成23年紀伊半島大水害の記録 未来へつなぐ教訓』、「平成23年紀伊半島大水害記録誌」を作成しました。
- ・DVDは被害の大きかった5市町（田辺市、新宮市、日高川町、那智勝浦町、古座川町）を中心とした当時の様子や被害状況、住民・関係者のインタビュー、復旧・復興への取り組みなどが60分にまとめられています。県庁広報課にて一般貸し出しも行っています。また県のWEBサイトの「インターネット放送局（<http://www.pref.wakayama.lg.jp/nettv/>）」で概略版（18分間）を閲覧することができます。
- ・記録誌は、A4版の304ページで①気象概要、②被害概要、③応急対応、④復旧・復興、⑤紀伊半島大水害を踏まえた防災・減災対策、⑥寄稿、⑦災害対策本部長回顧録、⑧被災地ルポの全8章からなり、巻末には資料編も掲載されています。こちらの記録誌は県庁本館2Fの情報公開コーナー（073-441-2392）で1冊2,000円で販売しており、郵送での対応も可能です。



●「南海トラフの巨大地震」及び「東海・東南海・南海3連動地震」による津波浸水想定について

- ・和歌山県では南海トラフの巨大地震等に係る地震・津波被害想定を実施するにあたり、地震・津波防災対策の専門家から、科学的知見に基づいた助言をいただくために「和歌山県地震・津波被害想定検討委員会」（以下、委員会）を昨年4月に設置し検討を行いました。
- ・今回、委員会での意見を参考に、「南海トラフの巨大地震（2012 内閣府モデル：Mw9.1）」と「東海・東南海・南海3連動地震（2003 中防モデル：Mw8.7）」の2つの浸水想定を行い、3月末に公表しました。
- ・これら、二つの地震による浸水想定を公表する意義は、県民に正しく伝え、「正しく恐れる」ことを周知し、今後、目標を明確に定め、防災・減災対策を着実に進めていくことにあります。
- ・県では、今回の浸水想定を受けて、以下の事項にすぐに取りかかることとします。

- 1 津波避難先の見直し
新たな浸水想定結果を踏まえ、安全レベルなど避難先の見直しを実施
- 2 県内主要施設の浸水予測状況調査
学校、社会福祉施設、病院の浸水予測状況調査を実施
- 3 津波ハザードマップ作成
新たな津波浸水予測結果をもとに沿岸市町の津波浸水ハザードマップ作成を支援
- 4 津波から『逃げ切る！』支援対策プログラム策定
避難困難地域の洗い出しと、それを解消するための支援対策プログラムを策定

○南海トラフの巨大地震による浸水想定

- ・内閣府が平成24年8月に公表した浸水想定を基に、より詳細な地形データ等を用いて想定したものの。
- ・地震の規模は、Mw9.1、発生頻度は極めて低いが、仮に発生すれば、被害が甚大なもの。対策が非常に困難。
- ・「何としても逃げ切る」ためのソフト対策を中心とした防災・減災対策を検討するために想定した。

○東海・東南海・南海3連動地震による浸水想定

- ・内閣府が2003年（平成15年）に宝永地震、安政地震など実際に発生した地震を基に想定した、従来から本県が防災・減災対策の「想定津波」としてきたもの。
- ・地震の規模は、Mw8.7、約100年周期で発生する、頻度が高く、先ず対策が必要なもの。
- ・引き続き、県民の命と財産を守るため、ソフト対策、ハード対策による防災・減災対策の「想定津波」の中心とするため、今回、新しい地形データ等を用いて設定した。

- ・浸水想定の詳細については下記ホームページよりご覧下さい。

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/011400/bousai/130328/sinsui.html>

Mw（モーメントマグニチュード）とは（気象庁ホームページより抜粋）
地震は地下の岩盤がずれて起こるものです。この岩盤のずれの規模（ずれ動いた部分の面積×ずれた量×岩石の硬さ）をもとにして計算したマグニチュードを、モーメントマグニチュード（Mw）と言います。普通のマグニチュード（M）は地震計で観測される波の振幅から計算されますが、規模の大きな地震になると岩盤のずれの規模を正確に表せません。これに対してモーメントマグニチュードは物理的な意味が明確で、大きな地震に対しても有効です。ただし、その値を求めるには高性能の地震計のデータを使った複雑な計算が必要なため、地震発生直後迅速に計算することや、規模の小さい地震で精度よく計算するのは困難です。

● 薬物の濫用の根絶を目指して 全国初！「知事監視品」を指定！

- ・ 4月1日の「和歌山県薬物の濫用防止に関する条例」の全面施行にあわせて、本県独自に、知事監視製品21製品と知事指定薬物8物質を指定しました。
- ・ 知事監視製品は本県独自の制度であり、お香などと称して身体に使用しないものとして販売されているが、興奮、幻覚、陶酔等の作用を及ぼすことがインターネットのホームページに掲載され、その製品の用途及び使用方法に反して、身体に使用されるおそれがあるものです。これらの製品を販売する場合、販売業の届け出や使用説明書の交付が必要となり、違反した場合には罰金が科せられます。また、購入者には、誓約書の提出を義務づけ、違反した場合には過料が科せられます。
- ・ 知事指定薬物は、濫用することにより、幻覚等の作用を及ぼし、人の健康に被害が生じるもの（物質）で、製造や販売、販売目的の所持が禁止されています。今後も、本県では条例に基づき、知事の権限において新種の脱法ドラッグを迅速に指定し、徹底した規制を行っていきます。
- ・ 指定された製品等については下記のホームページからご覧下さい。
<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/050400/drug.html>

● 平成25年2月議会で可決された主な条例

○和歌山県ウメ輪紋ウイルスの侵入及びまん延の防止に関する条例

- ・ ウメ輪紋(りんもん)ウイルスは、サクラ属(ウメ、モモ、スモモなど)等の植物に感染するウイルスです。このウイルスに感染すると落果や果実の表面に斑紋が現れるなど商品価値が失われ、減収する恐れがあります。
- ・ 和歌山県は、ウメ(産出額全国1位)、スモモ(同2位)、モモ(同3位)の全国有数の産地であり、万一発生した場合、農業だけでなく、梅干し加工・販売などの地域産業にとっても深刻な影響が出ると考えられるため、今回、ウイルスの侵入及びまん延を防止する条例を全国で初めて制定しました。

<概要>

- ・ ウメ輪紋ウイルスの感染が確認された地域からウメなどの「特定サクラ属等の植物(規則で別に定める)」を県内へ移す場合は、知事の許可が必要。
- ・ 症状を疑う植物を見つけた者は、知事に通報義務。
- ・ 症状を疑う植物に対する県の立入検査。

○和歌山県が管理する県道の構造の技術的基準及び県道に設ける道路標識の寸法を定める条例

- ・ 県道などの道路の構造は、これまで全国一律に法令(道路構造令)で定められていましたが、この法令では地域の実情に比べ道路や歩道の幅員が広すぎたり、防災機能の強化に関する規定や津波被害等の想定がなかったりするなど不都合な点がありました。
- ・ 地域主権一括法による道路法等の改正に伴い、県道の構造の技術的基準等を県独自で定めるための条例を制定しました。

<概要>

- ・ 自動車の停車帯や歩道の幅員等を地形の状況等に応じて縮小が可能。
- ・ 防災機能を強化する道路や津波被害が想定される箇所には、災害復旧や避難のための通路の設置が可能。
- ・ 外国人への案内サービスの向上を図るため、道路標識のローマ字の大きさを拡大。
- ・ 「和歌山県福祉のまちづくり条例」との整合を図るため、車いすのキャスターや杖等が落ち込まない構造の溝ぶたを設置。

～御坊市～

花のまち

・御坊市は温暖で冬季の日照条件にも恵まれ、海岸線のハウス群では、スターチスや宿根カスミソウなど草花類の栽培が盛んです。

・中でもスターチスは御坊市のほか日高地方で栽培され、和歌山県の出荷量は全国一。収穫期間中は、色とりどりのカラフルな花の風景が楽しめます。出荷は、11月から始まり3～4月に最盛期を迎えて5月下旬まで続きます。青紫、黄色等さまざまな色合いの品種があり、花の日持ちは最高クラスのレベル。乾燥しても色あせないことから、ドライフラワーとしてもよく用いられています。

・御坊には観光の花園もあり、5月中頃まで花摘み体験を楽しむこともできます。



本願寺日高別院と寺内町

・本願寺日高別院は、浄土真宗本願寺派の寺院。日高別院の前身である吉原坊舎が天正13年（1585）、豊臣（羽柴）秀吉の紀州攻めで戦火にかかり、文禄4年（1595）に現在の地へ。以来、日高別院を中心に寺内町が形成され、人々で賑わうようになりました。

・土地の人からは「御坊様」「御坊所」と呼ばれて親しまれたことが、市名の由来になっています。

・市内には現在も、歴史を感じさせる町並みが残り、ぶらりと散策をするにもぴったりです。

・また、JR御坊駅と市街地をむすぶ紀州鉄道は、営業距離が2.7キロメートルの日本有数の超ミニ鉄道です。平均時速20kmで、のんびりと御坊市内を走り、市民の足として親しまれています。



ごぼうはなバル

・4月27日、御坊のまちなかを巡って、今まで行って見なかったお店や知らなかったお店に出会うイベント「ごぼうはなバル」が開催されます。昨年9月に開催して大好評だったので、今回は第2弾。

・マップを手にして飲み歩き、そしてまち歩きを楽しみ、その魅力を感じることができます。

・当日は御坊市役所前に設けられた本部席前の設会場において、ダンスショーやライブショー、雑貨等の販売も行われます。



御坊市観光協会HP <http://www8.ocn.ne.jp/~g-kankou/>

ごぼうはなバルHP <http://www.gobo-cci.or.jp/hanabaru250427.html>

～編集後記～

春4月、今年も新年度がスタートしました。

「入園」、「入学」、「入社」、皆さんの周りにも人生の新たな第1歩を踏み出した人達がいらっしやると思います。

県庁でも、4月1日に正庁で新入職員121名に仁坂知事から辞令が交付されました。新人の皆さんは、身を包んでいる真新しいスーツと同じくらいフレッシュですが、心の中は希望と不安が混じり合っていることと思います。

かく言う私も今からちょうど30年前は、そのような新入職員の一で、本号でも紹介しました「けんぶん」であった辞令交付式を思い出しました。振り返ってみますと、昭和50年代後半というのは、和歌山県の人口がピークを迎えた頃でもあり、街にはもっと活気が溢れていたように思います。あの頃は、誰も30年後の今の状況を予想できなかったのではないかと思います。

しかし、「あの頃は良かった」と懐かしがっている場合ではありません。

本号の冒頭に知事が書かれているように、『いつか良くなった時代の人々が「今から考えると、あの時代が一番辛かったんだなあ」と思ってくれるように』私たちは頑張らなければなりません。

新人職員の皆さんが30年後に、今の和歌山が一番だと思えるように、職員全員がそれぞれの職務に取り組んでいきたいと思えます。

さて、「和歌山だより」編集長を拝命して2年目を迎えました。

これからも、「初心忘るべからず」で、和歌山の旬な話題を皆様にお届けしてまいりますので、引き続きよろしく願いいたします。

知事室秘書課長 森田 康友

★「和歌山だより」Web版を和歌山県ホームページにアップしています。Web版ならではの美しい画面を楽しんで頂けますので是非ご覧下さい。

和歌山だよりに対するご意見・ご感想をお聞かせ下さい。また、皆様がお持ちの和歌山に関する情報をご提供下さい。今後、皆様のお声を紙面づくりに活かしていきたいと考えています。

(下記のFAX(様式自由)、E-Mail等をお願いします。)

■FAX 073-422-4032

■E-mail e0001003@pref.wakayama.lg.jp

和歌山県のホームページ

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/>

ふるさと和歌山応援サイト

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/furusato/>

*個人情報につきましては、「和歌山だより」の発行以外の目的には、使用いたしません。



2013年(平成25年)4月 NO.60

和歌山県 秘書課

〒640-8585 和歌山県和歌山市小松原通1-1

TEL 073-441-2022